

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		福津市下水道事業運営審議会（令和7年度第1回）
開催日時		令和7年4月11日（金） 9時30分から 11時30分まで
開催場所		福津市役所本館2階 庁議室
委員名		(1) 出席委員 青谷勇、荒川貴典、井上惣一郎、沖隆司、近藤春生、 田畑博規、富松享一、中尾恭子、西村豊子 (2) 欠席委員 なし
所管課職員職氏名		【都市整備部】 都市整備部長 長野健二 【下水道課】 課長 来仙義久 経営係長 立野翠 経営係 上田あかり 石原達也
会 議	議 題 (内 容)	1 会長あいさつ 2 議題 ① 令和5年度決算の報告について（資料1） ② 下水道使用料の現状分析と改定率について 【使用料検証業務中間報告】（資料2） 3 委員の交代について
	公開・非公開別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	1名
	資料の名称	令和7年度福津市下水道事業運営審議会（第1回）次第 令和7年度第1回福津市下水道事業運営審議会資料 （資料1）福津市公共下水道事業 令和5年度決算の報告に ついて （資料2）使用料の現状分析と改定率
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法：委員確認
その他の必要事項		

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 会長あいさつ

2 議題

「令和5年度決算の報告について」

事務局：資料に基づいて説明

(資料1) 福津市公共下水道事業 令和5年度決算の報告について

「下水道使用料の現状分析と改定率について【使用料検証業務中間報告】」

事務局：資料に基づいて説明

(資料2) 下水道使用料の現状分析と改定率について

(委員)

8ページの県内自治体との使用料比較で、受益者負担金を考慮した場合はどうなるか？

(事務局)

福津市では受益者負担金の制度自体がないため、算定は困難である。合併前の旧津屋崎町では徴収していたが、合併時に受益者負担金を徴収しない方針で決定したため、徴収済みの方へ返還した経緯がある。

他市については、検証業務委託先に、受益者負担金を考慮した場合の使用料収入がどうなるか検証してもらった。市によって算定方法が異なるが、使用料収入に置き換えると20㎡あたりの使用料が数百円上乘せになる市もあり、受益者負担金の影響は大きいと考えられる。

下水道整備の初期費用を受益者負担金で賄うべきとできておらず、使用料で賄わないと企業として立ち行かない状況である。

(委員)

受益者負担金を徴収しなかった経緯を考えると、使用料の改定は必要でしょう。

(委員)

料金のうち、基本使用料とはどういう位置づけか教えてほしい。

(事務局)

使用水量によって変動しない固定費に相当する料金である。一方、使用水量によって変動する経費（電気料金や薬品代等）は、従量料金で徴収する。

(委員)

物価上昇も考えると、料金に反映するべきと感じる。

(事務局)

おおよその改定率が決まれば、次の段階として基本料金と従量料金にどのように配分するかのシミュレーションを行うので、次回以降の審議会でご検討いただきたい。

(委員)

経営状況を考えると、パターン①の改定率がよいでしょうが、高すぎるか。

(委員)

事務局としてはどのように考えているのか。

(事務局)

審議会形式なので、事務局の意見を申し上げることは難しい。パターン①が経営状況としては一番改善するが、同時に市民にご納得いただくには近隣市町

村の使用料との兼ね合いも重要という状況である。これらを勘案しながらご審議いただきたい。

(委員)

北九州市は基本使用料も従量使用料も安いが、受益者負担金が多かったということか。

(事務局)

北九州市のような都市部では人口密度が高く、効率的な運営ができること、規模が大きくスケールメリットがあることが影響しているのではないかと。ただ、どこの自治体でも今後は老朽化施設の更新で多額の費用が発生するという問題は出てくるはず。

(委員)

前回の平成30年の改定率が15.8%だったことを考えると、それに近い、パターン②③あたりが妥当か。我々は審議会で説明を受けて経営状況の厳しさが把握できたが、どのように市民に納得してもらうかが重要になる。

(事務局)

改定にあたっては周知期間も設けるため、丁寧に説明していくしかない。

(委員)

審議会から答申を出せば決定するのではなく、議会の承認が必要だという理解でよいか。

(事務局)

はい。条例の改正に該当するので、議会に諮り、議決が必要となる。

(委員)

市民の立場から考えるとパターン④がよいが、経営状況を考えるとパターン②③が妥当なラインでしょうか。

(委員)

市民に向けて、広報で経営状況の厳しさを訴えてはどうか。

(事務局)

年に1度経営状況は広報でお知らせしているが、なかなか目に留まらないのが実情である。これからもっと工夫を重ねる必要がある。

(委員)

料金改定が必要なことは共通認識としてあると思う。改定率を審議するにあたっては、以下の観点でもう少し分析があるとよい。1点目は受益者負担金があった場合、使用料はどのくらいの水準になるかの目安。2点目は市として最終目標をどこに設定するのか。たとえば基準外繰入金を将来的に0円にすることが目標であれば、資料の繰入金の推移グラフは基準内繰入金と基準外繰入金に区分した方がわかりやすい。3点目は、料金改定をした場合、使用控えが発生し水量が変動する可能性をシミュレーションに含めないのか。

(事務局)

1点目は受益者負担金の制度自体がなく仮定が難しいため、他団体との比較という観点でシミュレーションが可能であれば、次回お示しする。

2点目については、最終的には基準外繰入金を0円にすることが目標ではあるが、分流式下水道に要する経費に関する繰入金（基準内）の構造上、使用料を改定しても、まずこの基準内繰入金から先に減少し、それが0円になってからやっと基準外繰入金が増加する仕組みとなっている。そのため、今回は繰入金総額がどの程度減少するかをグラフで示している。また、目標の最終年度をどこに設定するか。仮にこの5年間で基準外繰入金を0円にするためには使用料を約60%改定する必要があるが、それは現実的ではないため、資金不足の何割を使用料で負担するかという観点からこの4パターンでシミュレーションし、

それぞれ繰入金総額はこのくらい減少するという推移を示している。

この繰入金総額の推移を、基準内繰入金と基準外繰入金に区分することで見えてくる将来の姿があるかどうか、次回お示しする。

3点目については、市の前回改定後の水量変動や最近改定した他自治体において、水量変動がどの程度あったかを次回までに確認する。

(委員)

今回は5年間で算定期間ということだが、もっと長期間で考えなくてよいのか。この5年間だけ経営状況が厳しいのか、その後も引き続き厳しいのかでも改定の考え方は変わるのではないか。

(事務局)

日本下水道協会が発行している使用料算定の手引きに基づいてシミュレーションをしている。手引きでは算定期間を3～5年間に設定することが適当とされていることから5年間で検証を実施しているが、今回改定すれば終わりではなく、引き続き3～5年間ごとに使用料の検証を行うサイクルになる。

(委員)

前回の改定から電気代が高騰していると思うが、どの程度高騰しているか次回出せるか。

(事務局)

次回お示しする。

(事務局)

今後、答申をいただくまでの審議内容をご説明すると、まず改定率・改定額パターンを決定し、次にその改定額をどのように基本使用料や従量使用料に反映するか、体系のシミュレーションを行うことになる。今回は改定率・改定額パターンの審議を行っている。いったん基本方針として1パターンを設定して、次回の審議会で体系シミュレーションを提示するか、もう少し分析を行ったあとにパターンを決定するか。資金不足の何パーセントを使用料で解消するかの観点で4パターンを提示しているので、改定率というよりはその観点で審議をお願いしたい。今のところ②と③のパターンで意見が出ているが…。

(委員)

やはり②は高すぎて市民が納得しないのではないかと。③でどうだろうか。

(委員)

それでは、③を基本パターンとしましょうか。

(事務局)

では、次回のご要望いただいた再分析と、パターン③をベースとして料金体系のシミュレーションを実施し、検証結果をご提示します。

(事務局)

事務連絡です。今回の会議録は、届いたら期日までに確認をお願いしたい。

次回は6～7月を予定しているが、シミュレーションを委託するため、所要期間によっては時期がずれる可能性がある。

3 委員の交代について

(事務局)

異動に伴う委員の交代について説明。